

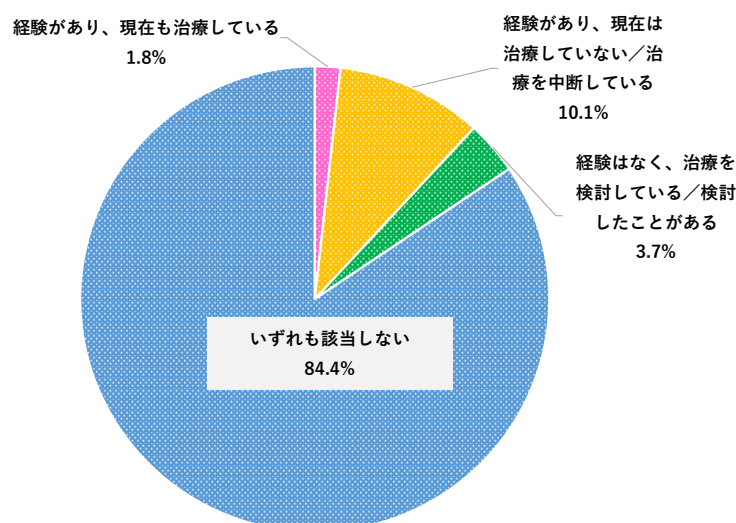
不妊治療と仕事の両立に関する職員の意識等についてのアンケート調査結果

1 不妊治療の経験の有無

不妊治療（治療に関する検査を含む）の経験について聞いたところ、「不妊治療の経験があり、現在も治療している」者が1.8%、「不妊治療の経験があり、現在は治療していない／治療を中断している」者が10.1%となっています。また、「不妊治療を検討している／検討したことがある」者が3.7%となっています。

これらを合わせて、不妊治療の経験がある、不妊治療を検討している又は検討したことがある者は15.6%となっています。

不妊治療（治療に関する検査も含む）の経験

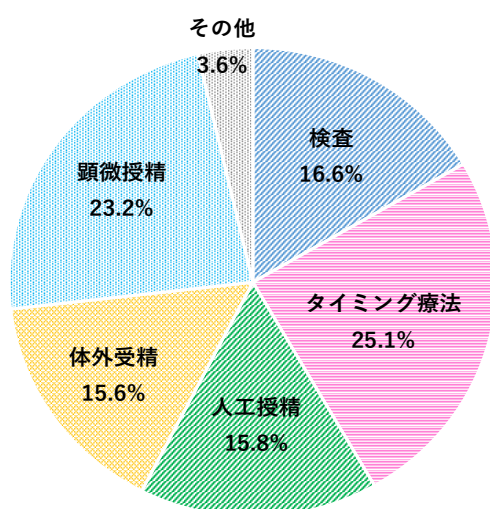


(n=47, 369)

2 直近の不妊治療の内容

不妊治療の経験がある者の直近の不妊治療の内容^(注)のうち、体外受精や顕微授精などの頻繁な通院が必要とされる治療が38.8%（体外受精15.6%、顕微授精23.2%）となっています。

直近の不妊治療の内容



(注) 不妊治療の内容（厚生労働省「不妊治療と仕事の両立サポートハンドブック」）

- ・タイミング療法…排卵日を診断して性交のタイミングを合わせる方法
- ・人工授精…精液を注入器で直接子宮に注入し、妊娠を図る方法
- ・体外受精…体外で受精させ、妊娠を図る方法
- ・顕微授精…体外受精のうち、人工的に（卵子に注射器等で精子を注入するなど）受精させる方法

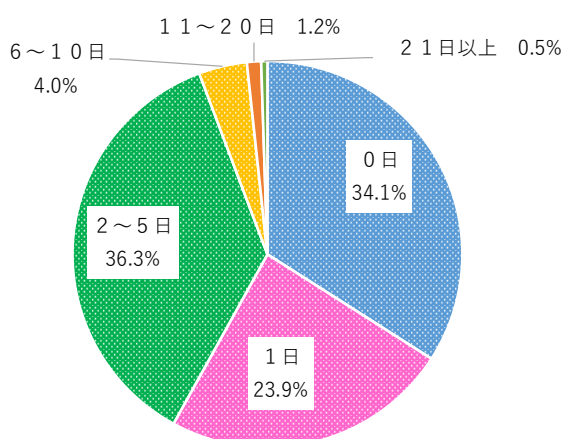
(n=5, 622)

3 直近の不妊治療のためにひとつの月経周期において仕事を休んだ日数

不妊治療の経験がある者について、ひとつの月経周期（25日～38日）において、直近の不妊治療のために、仕事を休んだ日（一部休んだ日を含む。）を選択してもらったところ、「2～5日」が36.3%、「0日」が34.1%、「1日」が23.9%となっています。

この日数は、頻繁な通院が必要とされる治療であるほど、多く要する傾向にあります。

直近の不妊治療のためにひとつの月経周期において仕事を休んだ日(一部休んだ日を含む)



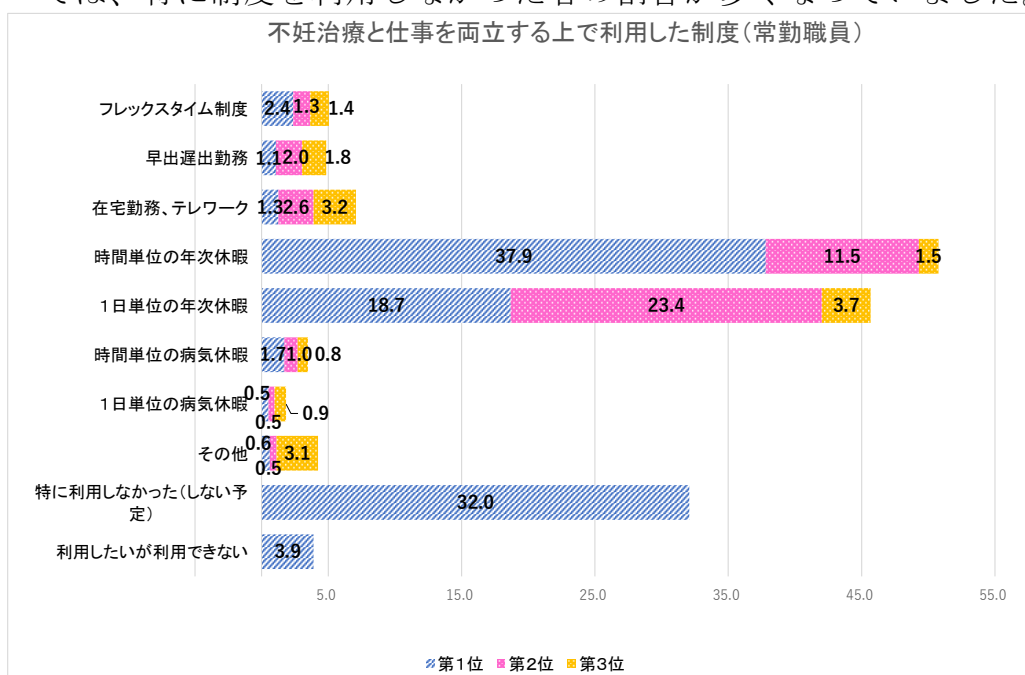
(n=5, 622)

4 不妊治療と仕事を両立する上で利用した制度について

不妊治療の経験がある者や不妊治療を検討している者等のうち、常勤職員について、不妊治療と仕事を両立する上で利用した（利用しようとしている）制度を上位3つまで選択してもらったところ、選択数の延べ数の上位3位は「時間単位の年次休暇」（50.9%）、「1日単位の年次休暇」（45.8%）、「特に利用しなかった（しない予定）」（32.0%）となっています。

直近の不妊治療の内容に応じて、頻繁な通院が必要とされる治療については1日単位、時間単位の年次休暇制度を利用する者が多く、検査やタイミング療法については、特に制度を利用しなかった者の割合が多くなっていました。

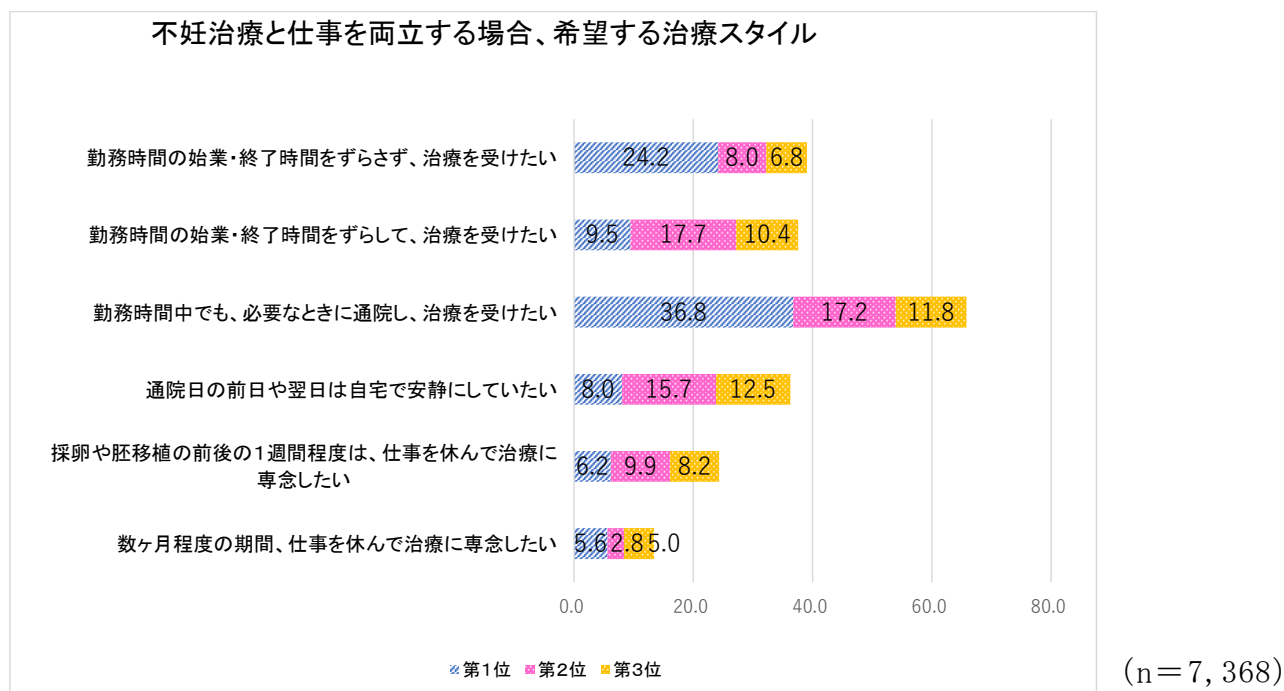
不妊治療と仕事を両立する上で利用した制度(常勤職員)



(n=5, 022)

5 希望する治療の受け方について

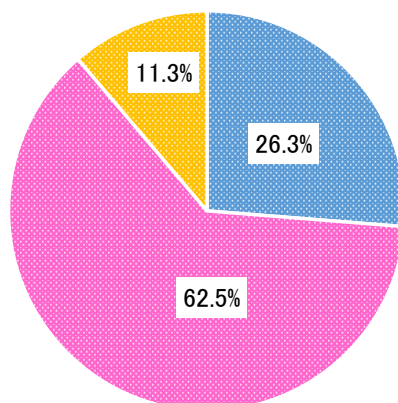
不妊治療の経験がある者や不妊治療を検討している者等について、希望する治療の受け方を上位3つまで選択してもらったところ、「勤務時間中でも、必要なときに通院し、治療を受けたい」が最も多くなっています。



6 不妊治療と仕事との両立について

不妊治療の経験がある者や不妊治療を検討している者等のうち、不妊治療と仕事を「両立することはできると思うが、かなり難しいと思う」者が62.5%、「両立することは無理だと思う」者が11.3%となっています。

不妊治療と仕事を両立することについて、現時点ではどのように思いますか。



- それほど困難なく希望どおり両立できると思う
- 両立することはできると思うが、かなり難しいと思う
- 両立することは無理だと思う

(n = 7, 368)

7 仕事との両立が難しい・無理な原因について

上記6で不妊治療と仕事との両立がかなり難しいと思う又は無理だと思うと回答した者について、仕事との両立が難しい・無理な原因を上位5つまで選択してもらったところ、「通院回数が多い」が最も多く選択され、続いて「経済面の負担が大きい」、「告げられた通院日に外せない仕事が入るなど、仕事の日程調整が難しい」となっています。

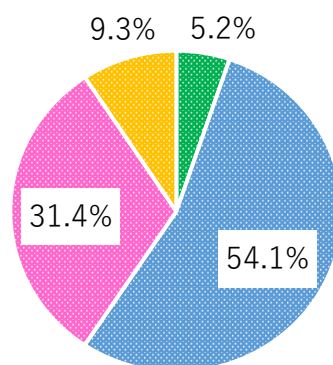
- ① 通院回数が多い (46.1%)
- ② 経済面の負担が大きい (44.6%)
- ③ 告げられた通院日に外せない仕事が入るなど、仕事の日程調整が難しい (41.0%)
- ④ 職場が忙しかったり、仕事を代替できる者がいないため、職場を抜けづらい (35.6%)
- ⑤ 治療に対する期待感や絶望感といった感情の変化など精神面の負担が大きい (33.0%)
- ⑥ 予約を入れていても待ち時間が長いときがあるなど、受診に要する時間が事前に分からない (31.8%)
- ⑦ 治療をしていることを言い出しづらい (31.5%)

8 不妊治療をしていることを伝えることについて

不妊治療の経験がある者や不妊治療を検討している者等のうち、不妊治療をしていることを伝えることについて、「仕事上、必要最小限の関係者に伝えることは構わない」者が54.1%、「誰にも伝えたくない」者が31.4%となっています。

また、不妊治療の経験がある者のうち、不妊治療を行っている（行っていた）ことを「積極的に伝えた」及び「仕事上、必要な者に伝えた」者は35.0%となっていました。

不妊治療と仕事を両立する上で、不妊治療をしていることを伝えることについて、どのように思いますか。



- 積極的に伝えたい／知ってほしい
- 仕事上、必要最小限の関係者に伝えることは構わない
- 誰にも伝えたくない
- わからない

(n=7,368)

〔調査対象等〕

一般職の国家公務員（常勤職員、非常勤職員）を調査対象として、ウェブサイト上にアンケートページを作成し、調査対象者が同ページにアクセスして回答する方法で令和3年1月12日（火）から2月5日（金）まで実施。

回答は任意、無記名とし、有効回答数は47,369、回答率は14.0%。

回答者の主な属性は以下のとおり

(1) 性別

男性68.5%、女性30.9%、無回答0.7%

(2) 年齢層

19歳以下	0.2%
20～24歳	4.3%
25～29歳	9.2%
30～34歳	8.8%
35～39歳	10.2%
40～44歳	13.5%
45～49歳	16.6%
50～54歳	14.5%
55～59歳	15.4%
60歳以上	7.3%

(3) 任用形態

常勤職員（再任用職員を除く。）84.0%
非常勤職員（再任用職員を除く。）12.0%
再任用職員4.0%

以 上